



▲1月1日 新年互礼会 亥年生まれの入居者とともに新年を祝う

ふくろう新聞

<発行>
 特別養護老人ホーム郷会
 淡路ふくろ委員会
 洲本市中川原町中川原28番地1
 TEL: 0799-25-8550
 FAX: 0799-25-8551
 ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/fukurou/>

みなさま 新年おめでとうございます。

旧年にお寄せいただきました皆さまのご指導とご支援に心からお礼申し上げます。

また、神戸市長田区細田神楽町に建設予定の新施設について、推進委員会の皆さまが、一億円の募金達成にご奮闘されています。現在5500万円を突破し、街頭で「一人ぼっちをなくそうプロジェクト」のパンフレットを受け取られた市民からの支援も次々と寄せられています。

第45回兵庫県ろうあ者新年大会でも「あきらめないで今年こそ着工しましょう。新施設の名称を六月の県ろう者大会で決めましょう」と呼びかけました。神戸市も深い理解に立ち実現を励ましてくださっています。

一月二日、マレーシアから6人のお客様がやってきました。うち一人はふくろうの郷で実習の経験がある方です。マレーシアといえば、「世界一静かなスターバックス」があります。スタッフ13人中10人が聴覚障害者です。日本でも同じように、聴覚障害者の雇用の機会が広がることを年頭に祈ります。

あきらめる=明らかに見る

今年を着工の年に 神戸での新施設 名称も決めましょう

隣接する土地もあきらめないで確保し、地域の皆さんと共に真実の福祉を作っていくましよう。

2月には2019年度の法人事業の重点と予算案を発表します。皆さんのご意見をぜひお寄せください。

ふくろうの郷入居者自治会による来年の漢字、2019年は「語」でした。歩み来た人生と、そして今を大いに語り、尊厳ある暮らしを創りましよう。

社会福祉法人 ひょうご聴覚障害者福祉事業協会

理事長 大矢暹



2019年の漢字は「語」
 揮毫は松栄寺のご住職



ふくろうの郷地域交流会による立派な門松、今年もありがとうございます

年男・年女に聞く「今年の抱負」



新居 州弘さん

昭和22年1月15日(72歳)

以前、母と弟がふくろうの郷に入所しており、お菓子をもってよく来ていた。そのころからいつかはふくろうの郷に入りたいたいと思っていて、ようやく念願の入所が叶い、ここでこれからもゆつくりと過ごしていきたい。

吉見 輝子さん

昭和10年8月4日(83歳)

元気なころは全国のあちこちへ講演、婦人運動に走り回っていた。もちろん老人ホームの必要性も、全国ろうあ婦人集会の分科会で討論した。今年はいくつもの郷の発展と仲間の幸せを願って、自治会長として頑張っていきたい。



安藝 正枝さん

昭和10年9月10日(83歳)

夫と一緒に旅行に行ったことや、野菜を作ったり、絵を書いたり、好きなことをしている時間が好きだった。ふくろうでは、皆と一緒に手話で話し、仲良く暮らしていきたい。

松崎 恵子さん

昭和10年2月14日(83歳)

2年前に骨折し、リハビリをくじけず頑張ったおかげで、今は歩けるようになった。今年は旅行に出かけたい!



玉木 亨さん

昭和22年3月30日(71歳)

家に居た時はリハビリとして腕立てや指の運動しよった。今もここでときどきしよんよ」楽しかったことは、「弟が元気な時は栗林公園に行ったりしたわ。そこで、子どもが遊んでるのをみてたなあ」抱負を聞くと、「どこかへ行ったり、するのはしんどい。こやうて部屋におるんがいわ。生涯をふくろうの郷ですごしたい」「イノシシのように突き進みます」



柴野 正史さん

昭和22年1月6日(72歳)

阪神タイガースのファンで、今年が残念ながら良い成績ではなかったので、来年優勝できるように応援していきたい。

冬は、ふぐ鍋が食べたい。(本音)死にゆくのに来年の抱負はない。食べたいものも、遊びも体が動く間にしてきた。

竹邊 正晴さん

昭和10年6月1日(83歳)

昨年はふくろうまつりで入居者の劇を頑張ってやる事ができた。大好きなお寿司をたくさん食べたい!



谷口 忠男さん

昭和10年6月16日(83歳)

たつのこ作業所(香川県)に通っていた時は塗り絵が得意で、塗り絵をよく描いた。旅行も好きで、いろんなところに行った。去年、香川県に帰省したので、今年もまた帰省したい。



入谷 ふじゑさん

昭和10年8月20日(83歳)

神戸のカネボウに勤め、転勤で淡路に来た。退社後、リベラルやジャスコでも働いた。仕事を頑張ったし、楽しく働けた。肉より魚が好き。餃子は嫌い。ぎょーっとするから(笑)。美味しい物をいっぱい食べたい。

山田 正江さん

昭和10年1月19日(83歳)

当時では斬新な通信販売の会社でパートで働いた。普段は堅実だったが、年に1回の社員旅行は津々浦々豪華な旅館に泊まらせてくれ、それが楽しみで一生懸命働いた。その理念や経験が後の旅館経営にもとても役に立った。人の世話になつてばかりではなく、人の役に立ちたい。ふくろうで最後まで「ありがとうありがとう」と言つて過ごした姉のようにありたい。



みんなで餅つき・しめ縄作り



▲しめ縄作りに励む小学生、地域の方と入居者の皆さん

12月18日(火)中川原老人クラブ連合会と淡路ふくろうの郷地域交流会の皆様にご協力をいただき「餅つき・しめ縄作り」を行いました。

今年は中川原小学校5・6年生15人と先生方も特別授業として参加いただきなごやかな一日となりました。小学生には、入居者の山崎榮子さんの被爆体験も聞いていただきました。しめ縄は、入居者それぞれの居室に飾られました。ご指導、ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

年末年始特集!

12月11日(火)クリスマス会が開かれました。午前中は、入居者みんなでボールを使ってのゲームです。いつもは居室でゆったりしている方も、一生懸命ボールを手渡したり、投げたりして大盛り上がり。目の見えない長岡さんは投げたボールがソリのカゴに入った時、声を出して喜び「もう一回!」と言っては、繰り返し挑戦。とても生き活きた姿でした。

昼食がクリスマスの特別メニューのオムライスや、おやつには可愛いケーキを手作りしたりのこの日は、「美味しいね」「可愛いね」など喜びの感想が多く聞かれました。(生活援助員 川満幸子)

▼ゲームを楽しむ入居者の皆さん



クリスマス会

こども代わりにの人形 鞆の津ミュージアムに

～勝楽佐代子さん～

広島県福山市にある鞆の津ミュージアムで昨年11月30日〜3月3日まで開かれている「かたどりの法則」という展示会に、入居者の勝楽佐代子さんが作った人形が展示されました。12月20日(木)に、勝楽さん、北風章子さん、長谷川清さんと一緒に取材に行ってきました。「久しぶりに広島に行くよ」「赤く染まった山が綺麗だね」と話をしながら、鞆の浦を目指しました。

勝楽さんは結婚直後、夫の進さんが旧優生保護法を背景とした強制的に断種手術を受けさせられました。そのため、子どものほ

しかったご夫婦は仕事の合間に人形を作り「子どもの代わりに」と大切にされ、ふくろうに入居した際50体もの人形を一緒に持ってこられていました。

この話を聞いたたくさんの方から「同じ思いをした」「戴きたい」との声があり、お二人は「嫁入りだね」と多くの人形を嫁がせました。

朝日新聞の記事で知ったというミュージアムの津口在五さん



▲久しぶりに出会う人形の前で笑顔の勝楽さん(右)

がふくろうの郷に来られ、「思いをかたどっている人形」を是非展示したい、と要請され、今回の貴重な機会をいただけたことになりました。大切な7体の人形を展示されています。勝楽さんは会場に着き、展示された人形を見つけると、笑顔を見せて下さいました。ミュージアムの津口さんから「お人形とは久しぶりの再会ですね。しばらくの間お人形も旅行です。」と声をかけられると大きく頷かれていました。

人形はいま話題となっている障害者の強制断種の問題をさらに多くの方に訴える役割も担っての「旅」となっています。(相談員 太田秋菜)

淡路聴覚障害者 センターへようこそ

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

12月8日、第4回『みんなあつまれ！輪っはっは』を開催。4家族9人の参加と、あわじ特別支援学校より2名の先生のご協力をえました。

仲良しが集まって

4回目ともなると子ども達同士、名前と顔は知っている。では、他のことも知ってもらおう！ということ、まずは自己紹介カード作り。好きなものや頑張っていること等を書いて発表しました。ミニケーキ作りでも、お互いに声を掛け合いながら、楽しく和やかな時間を過ごしました。



笑顔いっぱい 輪っはっは

繋がりを感じて

保護者には、あわじ特別支援学校教諭で、ご自身も聴覚障害者である山根先生と懇談して頂きました。先生からは「困っていることは自分から発信していく、自分を知らず何にでも挑戦する」と子ども達に向けたメッセージがありました。保護者からは、「同障児と会う機会をどう作ればいいのか」「幼稚園や学校で聴覚障害があることを先生や子供たちに話しておいた方がいいのか」などの質問や相談がありました。先生からお答え頂いただけではなく、保護者同士でアドバイスされる場面もあり、同障児を持つ親同士の信



▲先生の生い立ちに触れる保護者

頼関係が作られつつあるように感じました。

仲間の輪 広げよう

同障児と会う機会がなかった「もつと淡路島内で繋がりたい」「この交流会を広めたい」等の意見が保護者から出ました。

今後は、保護者の方にも企画に加わってもらうなど、輪を大きくしていきたいです。

(高木恵理)



12月16日、中川原ふれあいセンターにおいて、社会生活教室を開催しました。社会福祉士の吉田麻希氏をお迎えし『成年後見制度』についてお話いただきました。

ご存知ですか成年後見制度

日々安心して生活できるように

成年後見制度とは、高齢になり認知症を患い判断能力が低下された方、また障害をお持ちの方で家族が高齢または亡くなられた方などが安心して生活できるための制度です。預貯金や不動産などの財産管理を行うことと、介護サービスや福祉サービスをどう選択し、その人にとって一番暮らしやすい方法を考える身上監護という2つの役割を担っています。

家庭裁判所に申請し、家庭裁判所の審判によって後見人が決まります。最初の手続きや毎月の支払いはあるものの経済的に生活が大変な方でも市の助成制度を利用できるしくみとなっています。

参加者からは「将来自分たちが亡くなった後、障害のある子の後見人を兄弟にすることが出来るのか」「どこが窓口なのか」など質問も相次ぎ、興味深く話を聞いておられました。

自分に合わせて制度を活用

午後は3つのグループに分かれて話し合いました。それぞれに自分に照らし合わせて考え、「子供はいるが、具体的にまだ話していない。今後についてはきちんと相談しておいた方がいいね」「こんな制度があるのは知らなかった」「今、福祉サービスを利用しているから、担当のケアマネや相談員に相談できるね」など確認し合えることができました。(岡本 久子)



吉田氏の話しに聞き入る参加者



▲お餅の製造販売はおのころの家の得意とするところ。嬉しいプレゼントに大喜びの通所者・職員

今年「餅つき機」のプレゼント。今年も12月21日、大川次店長様が届けに来て下さいました。今年で8回目になります。作ったお餅を入れるフ

イオン洲本店様より クリスマスプレゼント

中川原高齢者・障がい者地域 ふれあいセンター

☎656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992



ードテナーもつけていただきました。

1月の兵庫県ろうあ者新年大会兼成人祝いの集いや耳の日の集いに向けてお餅を作って販売したいと思います。

12月26日、27日にお正月用のお餅をみんなで作って販売しました。28日は、午後からは大掃除、利用者会議で各々、一年の反省のもと、新年に向けての気持ちを新たに話し合いました。最後にぜんざいをいただいで年納めました。(おのころの家支援員 藤本)



▲餅つき器を届けてくださる大川次店長

「玉ねぎ苗植え 105 a 完了しました！」



▲広大な田んぼの植え付けを終わり、喜びの農業班のみなさん

「やっと、おわたな」「やったな」「ほっとしたわ」と一気に農作業班のみんな笑顔になりました。

昨年12月27日、玉ねぎ苗植えが漸く終わりました。9月から苗床作業を行ない、種をまき育て、10月15日から苗植えが始まりました。玉ねぎ作付面積は、初めに極早生15a、次に早生25a、そして中生65a、合計105aを大体2ヶ月かけて手植えしました。昨年度に比べ50a減りました。

利用者の吉田さん、定植作業が早い。濱口直さん、定植機を使用して穴あけ作業を一人で頑張ることができました。岡本さん、作業は少し遅くなったが休憩も取らずに頑張れました。藤木さん、定植作業は集中して頑張りました。西本さん、「みんなそれぞれの力で頑張れたなー」「ようやく終わったよ！」の表情です。

(農作業班 中島・橋詰)



▲ 毎年作っている干支の色紙、今年で12枚揃いました。

予告



～わくわくフリーマーケット in 中川原番外編～ 中川原わくわくイベント

日時:2019年2月17日(日) 10時～15時
場所:中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター

出店内容や詳細は、別紙のチラシやふれあいだよりでご案内いたします。お子様向けのゲームなど家族で楽しめるも企画しますので、是非お越し下さい。

神戸事業所

共同作業所 神戸ろうあハウス

〒652-0897 兵庫東神戸市兵庫区駅西
TEL & FAX 〇七八・五七九・〇七五五
安心して暮らせる
福祉施設を!!

重点課題は「難聴児の居場所作り」制度にとつつなげていくか

■粘り強い課題提起が成果につながる

12月1日「神戸市における聴覚障害者福祉拡充のための検討会」が開催されました。

昨年度は聴覚障害者の当事者団体、関係者より「障害者計画への当事者参加」「手話通訳派遣の範囲拡大」「聴覚障害者センターの整備」などをまとめ神戸市に提言されました。

検討会には毎回神戸市障害支援課にも参加いただいております。提言を受け止め、提言の中の「神戸市長定例記者会見に手話通訳」について来年少し実現されることになりました。

■難聴児の親の切実な要望を受けとめ

今年度は、難聴児親の会から、「子供一人一人の聞こえの程度が違う、ニーズも違ってくるので、どうかかわってほしいのか本当に難しい。まずは情報がほしい」。また、教育関係者からは「教育プログラムの中で、聞こえに障害のある子供たちがどのように考えられているのか知りたい」など意見がでたこともあり、重点テーマを

「聞こえない聞こえにくい子どもの居場所とその保護者の支援」とし、どのような制度につなげていけるか検証を行います。

二月には京都で実施されている放課後デイサービスの見学や現在県内でも行われている子ども企画をとおして検証していきます。予定している新長田の施設の中にも「放課後デイサービス」事業計画を盛り込んでいま

た。

す。子供たちがふれあえ、

親たちが求める居場所作りに活かせる様に法人も検討会に参加しています。

(神戸ろうあハウス 野村洋子)



▲聞こえない子どもの居場所作りについて話し合う検討会のメンバー (12月1日神戸市総合福祉センター)

神戸施設建設募金

目標 1億円!!

2018.12.27現在 募金合計額

54,826,919円

(プレート募金 118人)

目標1億円まで、あと

45,173,081円

1月・2月 ふくろうの暮らし

- 1/8 (火) 入居者誕生日会
ふくろう大学書道講座 書き初め
- 1/15 (火) 入居者懇談会・どんど焼
ふくろう大学絵手紙講座
- 1/18 (金) ふくろう工房手芸
- 1/19 (土) 地域交流会手話講座
- 1/25 (金) ふくろう大学料理講座
だいこんまつり
- 2/2 (土) 地域交流会手話講座
- 2/3 (日) 節分・豆まき
- 2/4 (月) ふくろうの郷理髪店
- 2/5 (火) 入居者誕生日会
- 2/8 (金) ふくろう工房手芸
- 2/12 (火) ふくろう大学書道講座
- 2/15 (金) ふくろう工房ちぎり絵
- 2/19 (火) ふくろう大学絵手紙講座



介護サポーター研修

将来家族の介護が心配、老人ホームのボランティアをしたい、介護の仕事をしたい、けど介護の知識がなく不安・・・そんな方のための体験講座です。お気軽に参加ください。

日時 2月16日(土)

10時～16時半



車イス移乗体験・ベッドメイキング・食事介助・認知症・聞こえについて・施設の見学等

参加費無料：申し込みは淡路ふくろうの郷へ

TEL 0799-25-8550 FAX 0799-25-8551

ふくろうの郷で掃除・食事介助など短時間のお仕事しませんか？

希望時間等、ふくろうの郷までお問合せください。